

軍政規定集

昭和十八年九月一日
第一號

馬來軍政監部

本規定集ハ部外ニ配布セザルモノナルニ付
取扱ニ注意セラレ度

馬來監達第二〇號

現地人職員給與規程制定ノ件達

部 内 一 般

馬來軍政監部現地人職員給與規程別冊ノ通
定ム

昭和十八年九月一日

馬來軍政監

現地人職員給與規程

第一章 總 則

第一條 軍政監部ニ勤務スル現地人職員（以
下職員ト稱ス）ノ給與ニ關シテハ別ニ定ム

ルモノヲ除クノ外本規程ニ據ルベシ

第二章 給料及其ノ他ノ諸給與

第二條 職員ノ給料ハ毎月十五日現在ニ於ケ
ル給料額ニ依リ月額（日給者ニ在リテハ日
給額ノ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス以下同
ジ）ヲ以テ之ヲ支給ス 但シ長期ニ亘ル出
張ヲ命ゼラレタル場合ニ於テハ其ノ出張期
間中ノ給料全額ヲ支給スルコトヲ得

第三條 月ノ十六日以降ニ於テ新ニ採用セラ
レタル者ノ其ノ月ノ給料ハ其ノ採用セラレ
タル日現在ノ給料月額ノ半額トス

第四條 毎月ノ二十七日ヲ以テ給料支給日ト
ス 但シ其ノ日ガ休日ニ當リ又ハ其ノ他已

2633



ムヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ繰上又ハ順延支給ヲ爲スコトヲ得

第五條 月ノ十五日以降ニ於テ増給又ハ減給等アリタル場合ニ於テモ其ノ月ノ給料ニ付テハ増給又ハ減給ニ因ル給料ノ差額ハ之ヲ追給又ハ返納セシムルコトナシ 但シ第七條乃至第十三條ノ場合ニ於テハ凡テ日割計算ノ法ニ依ル

第六條 職員懲戒又ハ刑ノ宣告ヲ受クルニ非ズシテ退職シタルトキハ軍政監部現地人職員令(以下職員令ト稱ス)第十三條ニ依ル退職給與金ノ外其ノ月ノ給料全額ヲ給ス 但シ退職給與金ハ勤続一年未滿ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタル者ニハ之ヲ給セズ

第七條 請願等ニ依ル休暇引續キ十四日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付給料日額(月給者ニ在リテハ給料月額ノ三十分ノ一ヲ以

テ日額ト看做ス以下同ジ)ノ十分ノ三ヲ減ズ三十日ヲ超ユルトキハ其ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

第八條 拘禁又ハ留置七日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付給料日額ノ十分ノ五ヲ減ジ十四日ヲ超ユルトキハ其ノ支給ヲ停止ス

第九條 懲戒又ハ刑ノ宣告ヲ受ケ罷免セラレタル者ニハ其ノ翌日ヨリ給料ヲ支給セズ

第十條 妄リニ職役勤務ヲ離レ故ナクシテ職務ヲ逃避シタル者ニハ其ノ間ニ於ケル給料ノ支給ヲ停止ス

第十一條 罰給ニ處セラレタル者ニハ職員令第十七條第二項ニ依リ其ノ言渡期間中給料月額ノ十分ノ四以内ヲ減ズ

第十二條 職員其ノ傷病公務ニ基因シ出務セザル場合ニ在リテハ其ノ發傷病ノ日ヨリ九十日間ハ給料全額ヲ給シ尙全治ニ至ラザル

者ニハ爾後月額ノ十分ノ七ヲ給ス 但シ此
ノ場合ニ於テハ指定醫師ノ診斷書ヲ要ス
前項ノ場合ニ於ケル治療ニ要スル諸費ハ實
費ヲ以テ官給ス

第十三條 職員公務ニ因ラザル傷病ノ爲出務
セザルコト六十日ヲ超ユルトキハ爾後給料
月額ノ十分ノ五ヲ減ズ

第十四條 職員公務執行中行衛不明トナリタ
ルトキハ其ノ生死ノ判明ノ日ノ屬スル月迄
給料全額ヲ給ス

第十五條 職員死亡シタルトキハ豫メ本人ノ
指定シタル遺族ニ職員令第十四條ニ依ル死
亡給與金ノ外附表第一ニ依ル埋葬料及其ノ
月ノ給料全額ヲ給ス

前項ノ遺族ナキトキハ配偶者、子、父、母、祖
父、祖母、兄、弟、姉、妹ノ順位ニ依リ死亡當
時本人ト生計ヲ共ニシタル者ニ之ヲ給ス同

順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者
ニ男ハ女ニ長ハ幼ニ先ツ

第十六條 職員其ノ出張先ニ於テ死亡シタル
トキ該地ニ於テ死體處分ヲ爲シタルトキハ
之ニ要シタル實費ハ前條ノ埋葬料ノ中ヨリ
支辨シ尙殘餘金アリタルトキハ前條ノ例ニ
依リ之ヲ其ノ遺族ニ給ス

第十七條 現場作業ニ従事スル雇員上官ノ命
ニ依リ時間外勤務ヲ爲シタルトキハ給料日
額ノ八分ノ一額ニ勤務時間數ヲ乗ジタル額
ヲ増給ス 但シ一日三時間ヲ超ユルコトヲ
得ズ

第十八條 職員居殘、詰切、終夜又ハ休日勤
務ヲ命ゼラレ之ニ服シタルトキハ附表第二
ニ依リ食料ヲ給ス

第十九條 職員ニシテ日本語檢定試験ニ合格
シタル者ニハ別ニ定ムル所ニ依リ日本語手

當ヲ給ス

日本語手當ノ支給ニ關シテハ凡テ給料支給ノ例ニ依ル

第三章 旅 費

第二十條 職員公務ニ依リ出張ヲ命ゼラレタルトキハ旅費ヲ給ス

第二十一條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス

鐵道賃及船賃ハ實際ニ要シタル規定料金ニ依リ、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、移轉料及家族移轉料ハ附表第三ノ旅費定額表ニ依リ之ヲ給ス

第二十二條 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リテ旅行シ難キ場合又ハ天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ノ爲迂廻シ

四

タル場合ニ於テハ其ノ實際ニ經過シタル通路ニ依ル 但シ此ノ場合ニ於テハ官公署ノ證明ヲ要ス

第二十三條 宿泊料ハ夜數ニ應ジ日當ハ日數ニ應ジ之ヲ給ス 但シ半日未滿ノ旅行ノ場合ニハ日當ヲ給セズ

水路旅行又ハ官ニ於テ施設シタル旅舎ニ宿泊シタルトキハ宿泊料ハ之ヲ給セズ 但シ水路旅行ノ場合官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲サザルトキハ食卓料ヲ給ス

第二十四條 官用ノ船車馬等ニテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ハ之ヲ給セズ

第二十五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ第二十二條但書ニ依ル場合ノ外ハ其ノ命令ニ定ムル日數ニ依ル
旅行中退職又ハ死亡シタルトキハ舊任地ニ

至ル迄ノ前官相當ノ旅費ヲ給ス 但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ罷免セラレタル者若ハ官ノ意ニ反シ自己ノ都合ニ依リ退職シタル者ニハ之ヲ給セズ

第二十六條 職員赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當三日分宿泊料三夜分ニ相當スル赴任手當移轉料及家族移轉料ヲ給ス

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃ノ外附表第三ノ相當額ヲ給ス 但シ十二歳未満ノ者ニ對スル鐵道賃、船賃、車馬賃ハ其ノ半額トス

赴任者赴任後三ヶ月ヲ經過スルモ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セザルトキハ家族移轉料ヲ給セズ

第二十七條 新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ前條ニ依ル赴任ノ場合ニ於ケル例ニ

準ジ新官相當ノ旅費ヲ給ス

第二十八條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ノ區分計算スル必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラザルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區分シ計算ス

第二十九條 測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡廻シ又ハ常時旅行ヲ要スル職員ニ對シテハ當該本屬長官ニ於テ其ノ業務ノ性質ニ依リ船車馬賃等ノ支給ヲ停止シ旅費ノ定額ヲ減ジ其ノ支給額ヲ定ムルモノトス

本屬長官前項ノ規定ヲ定メタルトキハ之ヲ軍政監ニ報告シ各其ノ關係部科ニ通報スベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第三十條 職員旅行スルトキハ別紙様式第一ノ旅行券ヲ携行スベシ

第三十一條 職員旅行ヲ終リタルトキハ別紙様式第二ノ旅行經歷書ヲ添ヘ様式第三ノ旅

費受領證ヲ提出スベシ

第四章 雜 則

第三十二條 本規程ハ職員ニ非ザル軍政監部
使用中ノ常續雇傭ノ者ニ付之ヲ準用ス

本規程中第二條乃至第五條ハ軍政監部邦人
職員宿舍ノ使用人ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 臨時人夫又ハ日傭人等ヲ傭上ス

附表第一

埋 葬 料

區 分	金 額	摘 要
特 任 吏	三〇〇〇	
普 通 吏	二五〇〇	
雇員以下	二〇〇〇	

附 則

ル場合ニ於テハ各其ノ所管部處ニ出勤簿ヲ
備付ケ其ノ出勤日數ニ依リ日給額ヲ給ス
前項ノ日給額ノ基準ハ別ニ之ヲ定ム

本規程ハ昭和十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附表第二

食料

區分	居殘食料	詰切食料	終夜食料	休日勤務食料	摘要
特任吏	四〇	六〇	八〇	七〇	
普通吏					
雇員以下	三〇	四〇	六〇	五〇	

備考

一、居殘ハ退聽後執務三時間、詰切ハ執務十四時間ニ及ブトキ、終夜ハ同二十四時ヲ經過シタルトキ
 一、本食料ハ現品ヲ以テ換給スルコトヲ得

附表第三

旅費定額表

車馬賃	區分	普通吏				特任吏				實費支給
		六級以下	五級以上	六級以下	五級以上	六級以下	五級以上	六級以下	五級以上	
車馬賃	食料	二〇〇	二五〇	三〇〇	三五〇	四〇〇	四〇〇	三〇〇	二五〇	二〇〇
	宿泊料	一五〇	一八〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一五〇	一〇〇
	計	三五〇	四三〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	七〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
	日當	一〇〇	一五〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一五〇	一〇〇
	食卓料	一〇〇	一二〇	一五〇	一八〇	二〇〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇
	移轉料	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	七〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
	家族移轉料	二五〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	六〇〇	四〇〇	三〇〇	二五〇
	二人以上	二〇〇	二五〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	五〇〇	三〇〇	二五〇	二〇〇

備考
一、車馬賃ニ對シテハ正當債主ノ受領證ヲ以テ證明ス

(様式第二)

欄考備	旅行期日	旅行経路	旅行目的	職名及氏名	所屬部科名
	旅行券				
	昭和 年 月 日至昭和 年 月 日				

昭和
年
月
日
馬來軍政監部

10

部
科
名

昭和 年 月 日

摘要

(様式第三)

旅費受領證

昭和 年 月 日

一、金 也

内 譯

	鐵道貨
	船 貨
	車馬貨
	日 當
	宿泊料
	食卓料
	合 計
	身 分
	氏 名
	印

但シ

一、發令年月日
及番號

一、旅行目的

一、旅行經過

一、出發

月 日、歸着 月 日

十一

2643

秘

南總經衣第一四七四號

マライ地區軍裝品配給規定制定ノ件達

マライ地區各部隊

別冊ノ通制定シ昭和十八年八月二十日ヨリ之ヲ實施ス

昭和十八年八月二十日

岡第一六〇一部隊長

マライ地區軍裝品配給規定

第一條 「マライ」地區ニ於ケル軍裝品ノ配給

ハ昭和十七年陸普第四、六八一號及南方軍

軍裝品配給規程ニ依ルノ外本規定ニ據ル

第二條 軍裝品ノ配給機關、配給担當地區及

補給機關ハ別紙第一ノ通トス

第三條 軍裝品及準軍裝ノ購入基準ハ別紙第

二ノ通トス

第四條 軍人軍屬ハ軍ノ販賣機關以外ニ於テ

十二

軍裝品及其他布帛及纖維類ノ購買ヲ禁ス

第五條 各部隊ハ購入基準ニ基キ軍裝品購入

證（別紙第三樣式）ヲ發行シ之ヲ軍裝品購

入者ニ交付スルト共ニ軍裝品購入證發行原

簿（別紙第四樣式）ニ所要ノ事項ヲ記載ス

ルモノトス

第六條 昭南通過部隊及單獨旅行者ニシテ緊

急止ムヲ得サルモノニ付テハ總軍高級副官

ニ於テ購入證ヲ發行シ其ノ寫ヲ所屬購入證

發行部隊ニ送付スルモノトス

第七條 各部隊ノ購入證發行官ハ獨立部隊長

トス前項購入證發行官ハ九月二十日迄ニ婦

人軍屬名簿（別紙第五樣式）ヲ南方軍總司

令部及軍裝品販賣機關ニ送付シ爾後異動ノ

都度修正送付スルモノトス

第八條 本規定ノ適用ハ左ノ通實施ス

一、初任者用品ノ販賣

2644

昭和十八年八月一日以降マライ地區ニ着任ノ者ヨリ適用ス
二、保續用品ノ販賣

昭和十八年九月一日以降昭和十九年三月迄ノ間ニ於テ購入基準數ノ二分ノ一(半ケ年分)以内トス

別紙第一

マライ地區軍裝品ノ配給機關、同担當地區及補給機關一覽表

第一次配給機關		第二次配給機關		配給担當地區		摘要
南方軍野戰貨物廠		昭南偕行社 (婦人軍屬用) (品ヲ除ク)	昭南軍酒保 (婦人軍屬用) (用品ノミ)	クアラランプール 貨物廠支廠	プライ 貨物廠出張所	
				補給担任地域		

軍裝品購入基準表

品名	軍 装 品									區 分
	略 帽 (絨製)	同 (綿製)	夏 衣 (絨製)	夏 袴 (絨製)	防 暑 衣 (綿麻製)	防 暑 袴 ()	防 暑 略 衣 ()	防 暑 略 袴 ()	夏 マント (綿製)	將 校 毛 布
軍 人	1/3	1	1/4	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/3	◎
高 等 官	2/3	1/4	1/2	1/3	1/3	1/2	1/2	1/2	1/2	◎
雇 員 以 上 (官ヨリ被服ノ貸與ヲ 受ケアルモノヲ除ク)	2/3				1/2	1/2	1/2	1/2		
軍 人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
軍 者 用 (判任以上)	1				1	1	1	1	1	

軍 裝 品														
革 脚 絆 (若 脚 絆)	略 刀 帶 (革 製)	軍 靴	背 囊	圖 囊	將 校 行 李	軍 刀	雙 眼 鏡	飯 盒	水 筒	襟 章	正 刀 帶	刀 鞘 革 覆	刀 緒	絨 胴 帶
$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{3}$	1		$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{10}$					3	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$	1	$\frac{1}{4}$
$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{2}{3}$		$\frac{1}{4}$						2	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{2}$	1	$\frac{1}{4}$
		$\frac{2}{3}$								2				$\frac{1}{6}$
1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1
1	1	2		1		1			1	2	1	1	1	1

人 婦			品 装 軍											
靴	下	シ	寝	外出用私服 (上ニ限ル) (高等官以)	襪	ハ	タ	カ	袴	開襟シャツ (亦ハ縹絆)	靴 下(綿製)	フ イ シ ヤ ツ	拍 車	軍 刀 手 入 具
		ヤ ツ	1	◎ 1	3	3	3	2	3	4	8	1 1/2	1 1/3	1 1/2
			1	◎ 1	3	3	3	1	2	3	5	1		1 1/3
2 3	3	3							2	3	5			
								2	2	2	3	1	1	1
1								2	2	2	2	1		1

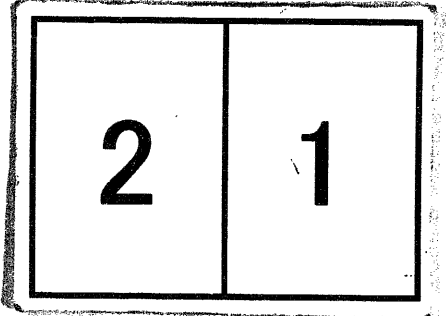
備考

- 一、 本表ハ一人一ケ年購入ノ最大限ヲ示ス
- 二、 長靴ハ高等官五等以上ニ限ル
- 三、 ◎印ハ一人當リ裁斷シ販賣スルヲ原則トス
- 四、 毛布、背囊、軍刀、雙眼鏡、飯盒、水筒等ハ海没其他ノ事故ニ依ル補填用トシテ若干整備シアルモノトス

軍 屬 用 品						
靴	バ	私	寢	タ	ハ	婦
下	ン			オ	ン	人
綿	ッ	服	卷	ル	チ	綿
	6	◎ 1	1	3	3	1 (肝)
	2	◎ 1	1			

2649

分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文 書 等 名	
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

第 號	軍 裝 品 購 入 證	
品 目	目 數	量
有効期限	昭和 年 月 日迄	
發行年月日	昭和 年 月 日	
發行官		
購 入 者		
官 所 購 入 者		
品 目	目 數	量
現 品 交 付	昭和 年 月 日	
配 給 機 關		

第 號	軍 裝 品 購 入 證	
品 目	目 數	量
有効期限	昭和 年 月 日迄	
發行年月日	昭和 年 月 日	
發行官		
購 入 者		
官 所 購 入 者		
品 目	目 數	量
現 品 交 付	昭和 年 月 日	
配 給 機 關		

第 號	軍 裝 品 購 入 證	
品 目	目 數	量
有効期限	昭和 年 月 日迄	
發行年月日	昭和 年 月 日	
發行官		
購 入 者		
官 所 購 入 者		
品 目	目 數	量
現 品 交 付	昭和 年 月 日	
配 給 機 關		

第 號	軍 裝 品 購 入 證	
品 目	目 數	量
有効期限	昭和 年 月 日迄	
發行年月日	昭和 年 月 日	
發行官		
購 入 者		
官 所 購 入 者		
品 目	目 數	量
現 品 交 付	昭和 年 月 日	
配 給 機 關		

面裏片丁

調 製 要 領

- 一、品目、數量ノ區別ハ適宜増減スルコトヲ得
- 二、甲、乙、丙、丁、各葉ヲ重ネ合セ複寫式トス甲、乙、丙片ハ薄葉トシ丁片ハ厚葉トス
- 三、發行部隊ハ發行原簿ト照合セノ上購入基準（別表第一）ヲ超過セサル如ク注意スルト共ニ購入證ノ發行ト同時ニ所事項ヲ原簿ニ記入ス
- 四、發行部隊ハ各片ニ現品交付年月日以外ノ事項ヲ記入シ乙、丙、丁片ニ發行官ノ職印及取扱主任ノ脇印ヲ押捺ス
- 五、品目、數量ハ各品目毎ニ記載シ不要ノ欄ハ取扱主任官ニ於テ以下餘白ト明記スルト共ニ斜線ヲ以テ抹消ス

2651 2650

乙

第 號	軍 裝 品 購 入 證	品 目 數 量	有 効 期 限 昭 和 年 月 日迄	發 行 年 月 日 昭 和 年 月 日	發 行 官
購 入 者 氏 名	所 屬 部 隊 名	品 目 數 量	現 品 交 付 日 昭 和 年 月 日	年 月 日	配 給 機 關

印

丙

第 號	軍 裝 品 購 入 證	品 目 數 量	有 効 期 限 昭 和 年 月 日迄	發 行 年 月 日 昭 和 年 月 日	發 行 官
購 入 者 氏 名	所 屬 部 隊 名	品 目 數 量	現 品 交 付 日 昭 和 年 月 日	年 月 日	配 給 機 關

印

丁

面裏片丁

第 號	軍 裝 品 購 入 證	品 目 數 量	有 効 期 限 昭 和 年 月 日迄	發 行 年 月 日 昭 和 年 月 日	發 行 官
購 入 者 氏 名	所 屬 部 隊 名	品 目 數 量	現 品 交 付 日 昭 和 年 月 日	年 月 日	配 給 機 關

印

一、本表ハ他人ニ譲渡スルヲ得ス
二、左記ノ場合ハ無効トス
1 品目數量有効期限及發行年月日ヲ訂正シ發行官ノ訂正職印ナキモノ
2 有効期限ヲ過經シタルモノ
3 發行官ノ職印及取扱主任者ノ職印ナキモノ
三、被委託者
購入者

- 調製要領
- 一、品目、數量ノ區別ハ適宜増減スルコトヲ得
 - 二、甲、乙、丙、丁、各葉ヲ重ネ合セ複寫式トス甲、乙、丙片ハ薄葉トシ丁片ハ厚葉トス
 - 三、發行部隊ハ發行原簿ト照合セノ上購入基準（別表第一）ヲ超過セサル如ク注意スルト共ニ購入證ノ發行ト同時ニ所事項ヲ原簿ニ記入ス
 - 四、發行部隊ハ各片ニ現品交付年月日以外ノ事項ヲ記入シ乙、丙、丁片ニ發行官ノ職印及取扱主任ノ職印ヲ捺捺ス
 - 五、品目、數量ハ各品目毎ニ記載シ不要ノ欄ハ取扱主任官ニ於テ以下餘白ト明記スルト共ニ斜線ヲ以テ抹消ス
 - 六、訂正事項アリタルトキハ發行官ノ職印ヲ以テ之ヲ訂正ス
 - 七、發行番號ハ發行部隊毎ニ年度ヲ通シ一連トス
 - 八、發行部隊ハ甲片ヲ原符トシテ控置乙、丙、丁片ヲ軍裝品購入者ニ交付ス購入者ハ乙、丙、丁片ヲ配給機關ニ交付シテ軍裝品ヲ購入ス
 - 九、配給機關ハ乙、丙、丁片ニ現品交付年月日ヲ記入シ丙、丁片ニ捺印ス乙片ハ證憑ノ爲控置、丙、丁片ハ一ヶ月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ丙片ハ補給機關ニ丁片ハ發行部隊ニ送付ス補給機關ハ前項ノ丙片ヲ取纏メ爾後ノ補給ノ資ニ供シ發行部隊ハ前項ノ丁片ヲ原符タル甲片ト照合スルモノトス
 - 十、購入者カ購入證ヲ配給機關ニ提示シタル場合品切等ノ關係ニ依リ軍裝品ヲ入手シ得サルトキハ配給機關ヨリ發行部隊ニ連絡シ發行部隊ニ於テ有効期限ヲ訂正スルカ若クハ再發行ノ手續ヲナスモノトス
 - 十一、保存期間ハ各片共五ヶ年トス

軍裝品購入證發行原簿

發行部隊

轉入出

考

[illegible]

備考,

一、本様式ハ發行部隊ニ於テ多少變更スルコトヲ得ルモノトス

二、轉任等ニテ異動ノ場合ハ本簿ヲ本人ニ交付シ新所屬部隊ニ提出セシムルカ若シハ舊所屬部隊ヨリ新所屬部隊ニ送

付スルモノトス

三、轉入出欄ニハ採用、轉入、轉出等ノ年月日ヲ記載スルモノトス

四、用紙ハ厚紙トシ日本標準規格B列4番ヲ基準トス

別紙第五

軍 装 品 購 買 者 名 簿

部 隊 名							
氏 名							
摘 要							
マ ラ イ 就 職 年 月 日							
職 名							
階 級 若 ハ 待 遇							
氏 名							
摘 要							

軍政規定集

昭和十八年十一月十一日
第三號

馬來軍政監部

馬來監達第二八號

慰安施設及旅館營業取締規程制定ノ件達

部 内 一 般

慰安施設及旅館營業取締規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月十一日

馬來軍政監

慰安施設及旅館營業取締規程

第一章 總 則

第一條 本規程ハ軍人軍屬並ニ一般邦人ヲ對象トスル慰安施設及旅館ノ整備並ニ營業取締ニ關スル事項ヲ規定ス

第二條 本規程ノ運用ニ當リテハ常ニ軍ト緊

密ナル連絡ヲ保持シ之ガ協調ニ努ムヘシ

第三條 慰安施設及旅館ハ軍人軍屬並ニ一般邦人ノ志氣ヲ昂揚シ日本人タルノ品格ヲ保持スルコトヲ主眼トス

第四條 慰安施設ハ處理上之ヲ左ノ如ク區分

一 娛樂施設（映畫、演劇、演技、讀書、

音樂、運動）

二 飲食施設（喫茶、食堂、料理屋）

三 特殊慰安施設（慰安所）

第五條 慰安施設ハ特ニ下士官以下ノ教育情操ヲ助成スル堅實ナル娛樂施設ノ整備ヲ第一義トシ飲食施設及特殊慰安施設ハ必要ノ最少限度ニ止メ且ツ酒亂ニ陥リ易キ（例ヘ

2654

ハ日本式ガフエーノ如キ）施設ハ之ヲ避クルモノトス

第六條 飲食施設及特殊慰安施設（慰安所）ハ其ノ營業場所等ヲ考慮シ現地人ニ對スル文化施策ニ惡影響ヲ及ボサザル如ク努ムヘシ

第七條 慰安施設ノ經營者ハ邦人ニ限定スルヲ本則トスルモ従業員ハ爲シ得ル限り現地人ヲ活用シ邦人ノ使用ハ必要最少限度ニ止ムルモノトス

第八條 慰安施設營業ヲ左ノ如ク區分ス

一 軍專用

一般人ノ出入利用ヲ許サザルモノ

二 軍利用

一般人ノ出入利用ヲ許スモ軍人軍屬ニ對シ特ニ利便ヲ與フルモノ

三 其ノ他ノ營業

右以外ノモノ

二

第九條 軍專用及軍利用ノ認定ハ軍ニ於テ行フ

第十條 本規程ニ於テ軍トアルハ第二師團長又ハ第二師團長ノ指示スル獨立守備隊長ヲ謂フ

第十一條 海軍ノ所管ニ屬スル慰安施設及旅館ハ軍政機關ニ於テ關與セザルモノトス

第二章 營業處理

第十二條 左記事項ハ地方長官ニ於テ處理スヘシ

一 營業ノ許可、禁止、停止

二 營業ノ讓渡及營業所移轉ノ許可

三 稼業婦ノ就業及就業所變更ノ許可

四 營業者及稼業婦ノ廢業許可

第十三條 地方長官ニ於テ軍專用及軍利用ノ認定並ニ取消ノ要アリト認メタルトキハ其

ノ事由ヲ具シ軍政監ニ報告スベシ

第十四條 軍政監前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ軍ニ要請スルモノトス

第十五條 地方長官ニ於テ營業者及從業員ノ轉業轉籍ニ關スル許可申請ヲ受理シタルトキハ實情調査ノ上意見ヲ附シ軍政監ニ進達スベシ

第十六條 地方長官ニ於テ邦人ノ營業經營者及從業員呼寄ノ要アリト認メタルトキハ關係者ノ呼寄證明願ニ其ノ事由ヲ具シ軍政監ニ報告シ其ノ決定ヲ得テ處理スベシ

第十七條 軍政監前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ軍ニ申請スルモノトス

第十八條 地方長官ハ營業處理ニ關シ左ノ各號ニ準據スベシ

一 開設ニ關シ軍ノ要望又ハ軍政監ノ指示アルトキハ家屋設備ノ貸與等ヲ斡旋シ且

ツ敵産ニカカルモノナルトキハ敵産管理ノ諸規定ニ依リ處理スルコト

二 營業ノ整備並ニ營業者及從業員ノ處分ニ關シ軍ノ要望アルトキハ其ノ要望ニ從ヒ處理スルコト

第十九條 本規程ニ依リ許可スル一般邦人ノ專用ニ供スベキ旅館ノ經營者ハ邦人ニ限ル

第二十條 軍專用及軍利用店ノ販賣價格、代金、サービス料等ハ別途定ムル所ニ依ル

第二十一條 地方長官ハ慰安施設及旅館ノ營業者並ニ從業員ニ對シ毎月一回健康診斷ヲ行フベシ

前項ノ外稼業婦ニ對シ毎週一回檢査ヲ行フベシ

第二十二條 地方長官ハ一般衛生管理ニ關シ必要アルトキハ關係軍隊ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第三章 監督

第二十三條 地方長官ハ各營業者及從業員ニ對シ馬來監達第二十九號慰安施設及旅館營業遵守規則（以下單ニ遵守規則ト稱ス）ノ勵行ニ付取締ヲ行フベシ

第二十四條 新ニ營業ヲ許可セントスルトキハ遵守規則ノ勵行ヲ許可條件トシ既設營業ニ對シテハ之ニ據ラシムル如ク措置スベシ

第二十五條 地方長官ハ營業開設ニ當リテハ公安風俗及衛生上支障ナキ樣營業所ノ構造設備ヲ爲サシムベシ

第二十六條 地方長官ハ慰安施設及旅館營業者名簿並ニ稼業婦名簿（樣式適宜）ヲ備付ケ異動ノ都度整理スベシ

前項ノ外稼業婦ニ對シ證票（樣式適宜）ヲ交付シ就業中之ヲ携帯セシムルモノトス

四

第二十七條 地方長官ニ於テ軍專用及軍利用營業ノ許否並ニ禁止處分ヲサントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ軍政監ニ稟申スベシ
前項以外ノ處分ニ於テモ特別ノ事情アルトキ亦同ジ

第二十八條 地方長官ハ本規程ニ依リ處理シタル事項ハ其都度軍政監ニ報告スベシ

第二十九條 本規程施行ノ爲必要ナル取締事項ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第四章 雜則

第三十條 支部ニ於テ從來實施セル事項ニシテ本規程ニ反スルモノハ漸次本規程ニ據ル如ク措置スベシ但シ簿冊ノ如キ支障無キ限リ從來ノモノヲ用ユルコトヲ得

附 則

本規程ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十八年十月五日馬來監達第二十四號慰安施設及旅館營業取締規程ハ之ヲ廢止ス

馬來監達第二九號

慰安施設及旅館營業遵守規則制定ノ件達

部 内 一 般

慰安施設及旅館營業遵守規則左ノ通定ム

昭和十八年十一月十一日

馬來軍政監

慰安施設及旅館營業遵守規則

第一條 慰安施設及旅館營業者ハ軍及軍政監部ノ別ニ指示スル事項ノ外本則ヲ遵守スベシ

シ

第二條 慰安施設營業者ハ營業ノ區分ニ從ヒ店頭見易キ個所ニ附表第一號ノ標識ヲ掲クベシ但シ軍關係ニ非ザルモノハ此ノ限リニ在ラズ

第三條 從業員ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其都度附表第二號様式ニ依リ所轄地方長官ニ届出ツベシ但シ遠隔ノ地ニアリテハ所轄警察署ヲ經由スルコトヲ得

第四條 營業者ハ附表第三號及第四號様式ノ從業員名簿ヲ備付ケ異動ノ都度整理シ置クベシ

第五條 營業者ハ各營業種別毎ニ組合ヲ組織シ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六條 營業者稼業婦ヲ雇入レタルトキハ別冊藝妓、酌婦、雇傭契約規則ニ基キ雇傭契約ヲ定メ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 外部ヨリ見透シ得ル場所ニ於テ婦女子

ヲシテ客ト戲レ或ハ異様ノ服裝又ハ見苦

シキ姿態ヲナサシメザルコト

二 婦女子ヲシテ遊興ヲ勸誘セシメザルコト

三 婦女子ヲシテ客ニ隨伴外出セシメザルコト

四 社交ダンスヲ行ハシメザルコト

五 旅館ニ於テハ婦人ヲ客室ニ出入セシメザルコト

六 「レコード」及樂器類ハ十七時以降二十

三時迄ノ使用差支ヘナキモ頽廢的ノ歌詞

音樂類ノ演奏及擴聲器ノ備付ヲナサザルコト

七 營業所ハ常ニ清潔ニシ衛生上遺憾ナキヲ期スルコト

六

八 從業員ノ保健衛生上必要ナル設備ヲナ

シ又冗費ヲ節約セシメ堅實ナル生活ヲナサシムル様常ニ指導監督スルコト

九 營業時間ハ十二時ヨリ二十四時迄トス

一〇 客室(特殊慰安所ヲ除ク)及裝飾燈ノ全部並ニ屋外照明燈ノ大部ハ二十四時ニ滅燈スルコト

一一 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ客ニ所定以外ノ料金ヲ請求セザルコト

第八條 營業者ハ所定ノ販賣價格料金サービス料其他之ニ準ズルモノヲ各客室ニ揭示シ置クベシ

第九條 營業者及從業員ハ地方長官ノ指示シ

タル所ニ依リ健康診斷ヲ受クベシ稼業婦ハ前項ノ外檢査ヲ受クベシ

第十條 營業者及從業員ハ軍ノ衛生巡察ヨリ指示注意ヲ受ケタルトキハ之ニ從フベシ

第十一條 稼業婦ハ就業認可ヲ受クルニ非ザレバ就業スヘカラズ

檢徴ノ結果病毒感染セリト認メラレタル者ハ全治ノ認定アル迄就業スベカラズ

第十二條 營業者及従業員ハ軍政監ノ許可ヲ受クルニアラザレバ轉業轉籍ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ許可申請ハ所轄地方長官ヲ經由スベシ

第十三條 營業者及稼業婦ニシテ廢業セントスルトキハ所轄地方長官ニ願出許可ヲ受クベシ

第十四條 經營者ハ營業開始ニ當リ敵産ニ付テハ敵産管理人トシテ所要ノ整理ヲ爲スベシ

前項ノ敵産ハ非敵産物件ト區分整理スルモノトス

第十五條 兵站旅館ニ於テ一般人ヲ宿泊セシメタルトキハ規定料金ノ外左ノ金額ヲ徵收スベシ

一 將官待遇 五圓

一 佐官待遇 四圓

一 尉官待遇 三圓

前項ノ徵收額ハ軍政監ニ納付スベシ

第十六條 營業者(兵站旅館ニシテ一部ノ委託經營ニ屬スルモノヲ除ク)ハ現金出納簿(樣式適宜)ヲ備ヘ尙所要ニ應シ補助簿ヲ備ヘ日日收支ヲ明確ナラシムベシ

第十七條 營業者(除特殊慰安施設營業)ハ左ノ各號ノ決算書ヲ所轄支部警務部經由ノ上軍政監ニ提出スベシ

一 毎月附表第五號ノ收支計算書

二 六ヶ月毎ニ附表第六號ノ資産負債内譯

表

第十八條 特殊慰安施設(慰安所)營業者ハ毎月附表第七號ノ收支計算書ヲ翌月十日迄ニ所轄支部警務部經由ノ上軍政監ニ提出スベシ

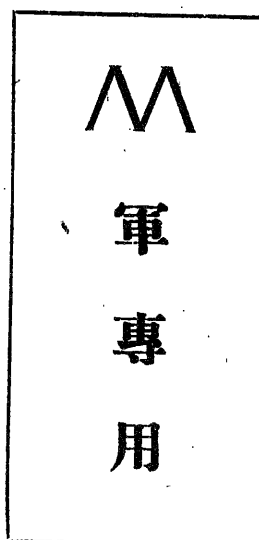
第十九條 營業者ハ本則ノ外地方長官ノ指示命令ヲ遵守スベシ

附 則

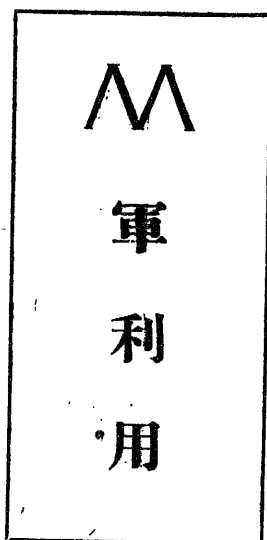
本規則ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附表第一號

一軍専用



二軍利用



大
キ
サ

縦
八
十
糎

横
三
十
糎

程
度
ヲ
超

ヘ
ザ
ル
コ

ト

九

2662

附表第二號

本 住 氏 性 年 種 族	別 齡 別 名 所 籍	從 業 ノ 種 別	雇 入 年 月 日	解 雇 年 月 日	昭和		州(市)長官殿	營業所	營業者
					年	月 日			
従業員雇入(解雇)届 印									

10

2663

附表第三號

一 従業員名簿(其ノ一)

昭和	年	月	日起
従業員名簿			
屋	號	營業者	

2664

附第表四號

從業員名簿(其ノ二)

別種業從				
氏名				
年齢				
性別				
別族種				
住本				
所籍				
雇入	雇入(解雇)年月日			
解雇				

三

2665

附表第五號

收 支 計 算 書

昭和 年 月 分

業種 屋號 氏名

收 入			支 出		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
軍支拂宿泊料	名分		營 業 費		
同 食事料	名分		勞 務 費		
一般入支 拂 宿 泊 料			給 料	人	
料理收入			貸 金	人	
飲料收入			手 當	人	
花代總收入			飲料購入		
接待料收入			材料購入		
雜 收 入			藝妓支拂		
			接待料 給仕割戻額		
			諸 公 課		
			納 付 金		
			雜 費		
(差引損失)			(差引益金)		
合 計			合 計		

注意 1. 料理店喫茶店旅館等業種ニヨリ科目ヲ適宜取捨シ又ハ新設
スルコトヲ得

2. 營業費中ニハ經營者所有ノ不動産(諸設備ヲ含ム)ノ償却ヲ
含ム

以上御届ニ及候也

昭和 年 月 日
右(營業者氏名)

馬 來 軍 政 監 殿

2666

附表第六號

資 産 負 債 内 譯 表

昭和 年 月現在
業種 屋號 氏名

資 産			負 債		
科 目	内 譯	金 額	科 目	内 譯	金 額
固 定 資 産			資 本		
營業用設備什器			自 己 資 金		
			借 入 資 金		
開 業 費			買 掛 金		
貸 付 金			從 業 員 預 金		
賣 掛 金			何 々		
棚 卸 資 金					
預 金					
現 金					
何 々					

一四

右御届ニ及候也

昭和

年

月

日

右(營業者氏名)

馬來軍政監殿

2667

附表第七號

收 支 計 算 書

昭和 年 月 分

何々俱樂部

營業者氏名

收 入				支 出			
科 目	摘 要	金 額		科 目	摘 要	金 額	
玉代總收入				玉代(稼業婦ニ拂戻)			
雜收入				賄 費			
				光熱費			
				衛生費			
				組合費			
				家 賃			
				給 料			
				營繕費			
				備品費			
				雜 費			
				本月利益			

備考1.投資額(稼業婦ニ貸與シアル前借金及開業迄ニ特ニ要シタル經費)
 (イ)當初ノ金額
 (ロ)現在迄ニ回收シタル額
 前月迄ノ回收額
 本月回收額
 計
 (ハ)差引未回收額
 2.人員數 (イ)稼業婦 名 (ロ)其他使用人 名
 右御届ニ及候也
 昭和 年 月 日
 右何々 (印)
 馬來軍政監殿

一五

2668

資産負債内譯表説明事項

- 一、本表ノ勘定科目ハ業態ノ主要項目ニ就キ設定シタルモノナルヲ以テ指定以外ノ資産負債ニ對シテハ經營者ニ於テ其ノ性質ヲ明確ナラシムヘク科目ヲ區分設定シ各勘定科目ノ月末現在高ヲ計上スルモノトス
- 二、固定資産ニハ開業ノ爲ニ要シタル建物及工作物ノ新築模様替ヘ等ニ要シタル金額ヲ計上ス
- 三、營業用設備什器ハ當該科目ノ初度調辨額ヲ計上シ別ニ定ムル原價償却法ニ依ル
- 四、開業費ニハ開業ニ至ル間ニ於ケル従業員ノ給料及旅費其他ノ諸掛ヲ計上ス
- 五、貸付金ニハ從業婦ニ對シテ貸付ヲ爲シタル債權額ヲ計上ス
- 六、賣掛金ニハ月末現在ニ於ケル未收入金ヲ

計上ス

- 七、買掛金ニハ仕入シタル諸材料品ニ對スル未支拂金ヲ計上ス
- 八、損益計算上諸公課及支拂利子等ニ對シ期間計算ヲナシタル引當金ニ對シテハ之ヲ負債ニ計上スルモノトス
- 九、固定資産ノ減價償却ハ

旅館 年 料理屋 年

(別 冊)

藝妓、酌婦雇傭契約規則

第一條 營業者藝妓酌婦(以下稼業婦ト稱ス)ヲ雇入レントスルトキハ其ノ契約ヲ左記標準ニ依リ爲スベシ
但シ從來ノ契約中稼業婦ノ利益ニ屬スルモノニシテ其ノ契約ヲ存續セントスルトキハ此ノ限りニ在ラズ

一 稼業婦ガ稼業ニ依ル收益金ヨリ強制貯金ヲ控除シタル残高ノ收得歩合ハ左記ニ據ルベシ

(イ) 稼業婦稼高ノ配當歩合

債務残額	雇主所得	本人所得
千五百圓以上	六割以内	四割以上
千五百圓未滿	五割以内	五割以上
無借金	四割以内	六割以上

(ロ) 前借金及別借金ハ總テ無利息トス

第二條 稼業婦ニ屬スル左ノ費用及物品ハ雇主ノ負擔トス

一、居室、戸棚、衣類箆筒、消毒用器具

二、寢具一式

三、食費、燈火

四、消毒藥品

五、健康診斷ニ要スル費用

第三條 雇主ハ稼業婦ノ毎月稼高ノ百分ノ三

ヲ地方長官ノ指定スル郵便局ニ稼業婦本人ノ名儀ヲ以テ貯金シ稼業婦廢業ノ時本人ニ交付スルモノトス

第四條 稼業婦ノ配當所得金ヲ以テスル前借金返濟ハ毎月其所得ノ三分ノ二以上トシ殘金ハ稼業婦ノ自由トス

第五條 稼業上ニ起因スル妊娠分娩及疾病ニ要スル諸費用ハ雇主、稼業婦折半負擔トシ其ノ他ニ起因スルモノハ稼業婦ノ負擔トス但シ此ノ場合ニ於テモ雇主ハ見舞金トシテ適當ノ補助ヲナスモノトス

第六條 遊客其他ヨリ稼業婦ニ於テ直接收受シタル金品ハ總テ稼業婦ノ收得トス

第七條 遊興費ノ不拂ハ總テ營業主ノ負擔トス

第八條 稼業婦廢業シタルトキハ雇主ハ稼業當日迄ノ稼高ヲ精算スベシ

第九條 稼業婦が本契約締結ノ日ヨリ滿六ケ

月以内ニ於テ雇主ノ意ニ反シテ解約セント
スルトキハ雇主ニ對シ相當額ノ違約金ヲ補
償スルモノトス但シ其ノ金額ハ所轄地方長
官ノ承認ヲ得テ決定スベシ

第十條 雇主ハ様式第一號ノ貸借計算簿及様
式第二號ノ稼高日記帳各二通ヲ調製シ其ノ
各一通ヲ稼業婦ニ交付シ毎月末計算ノ上整
理シ置クベシ

第十一條 稼業婦一時ニ別借百圓以上爲サン
トスルトキハ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベ
シ

第十二條 左ノ場合ニ於テハ貸借計算簿及稼
高日記帳ヲ所轄地方長官ニ提出シ檢閲ヲ受
クベシ

一、稼業婦ノ開業就業所ノ變更又ハ廢業セ
ントスルトキ

一八

二、別借金ノ認可ヲ受クルトキ
三、契約ヲ變更セントスルトキ
四、亡失、毀損等ニ依リ帳簿ヲ變更セント
スルトキ

第十三條 本則ニ定メタル事項以外ノ雇傭關
係ヲ契約セントスルトキハ其都度所轄地方
長官ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 本則施行ノトキ契約シアルモノハ
本則ニ依リ契約シタルモノト看做ス但シ稼
業婦ノ不利益トナル事項ハ本則ニ適合スル
如ク變更スベシ

2671

昭和
年
月
日起

貸
借
計
算
簿

軍專(利)用
(屋號)

營業者氏名
藝名
氏名

10

[illegible]

2673

昭和

年

月

日起

稼
高
日
記
帳

軍事(利)用
(屋號)

營業者氏名
藝名
氏名

二一

2674